

施工手順書

防滑性ビニル床シート

タキストロン タフスリップタイプ

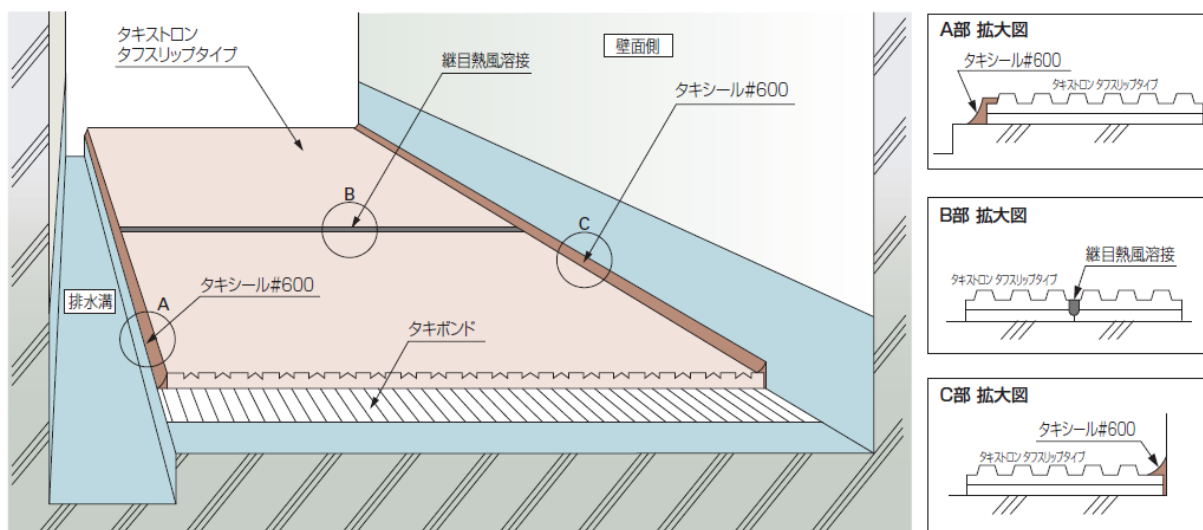
<マンション用・バルコニー用>

タキロンマテックス株式会社

施工の前に

耐水・特殊耐水工法の概略

タキストロン標準納まり図 (マンション開放廊下の場合)



※標準納まり図は一例であり、実際の納まりとは異なる場合があります。

工法と接着剤・副資材選定表

工法	用途	下地	接着剤	継目処理材	端部処理材
耐水工法	開放廊下・ベランダなどの直接雨がかりのない場所	吸水下地・非吸水性下地	タキボンド#607	床溶接棒	タキシール#600
特殊耐水工法	屋根のない開放廊下・屋上・ルーフバルコニーなどの完全屋外	非吸水性下地 (全面塗膜防水下地など)	タキボンド#607 タキボンド#601	床溶接棒	タキシール#600
		吸水性下地 (モルタル下地など)	タキボンド#601	床溶接棒	タキシール#600 ^(フ)

排水溝、壁側にウレタン系塗膜防水材料を併用する場合は、下記にご注意ください。

注1) ウレタン系塗膜防水材料下地の場合は、トップコートの種類によって副資材の選定が異なりますので、営業担当者への確認をしてください。

注2) 接着剤の選定は、ウレタン系塗膜防水材料の種類によって、本来の接着強度が発揮できない場合がありますので、営業担当者への確認をしてください。

(フ) 完全屋外のモルタル下地などの吸水性下地にタキシール#600を使用する場合は、必ずタキボンド#625で前処理を行ってください。

※タキシール#600等の端部処理材は、標準使用量で打設してください。

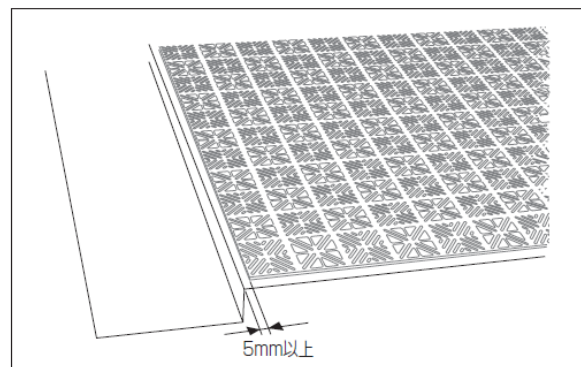
タキストロン タフスリップタイプ 施工手順

1. 下地の清掃

- 砂・塵埃などを除去してください。

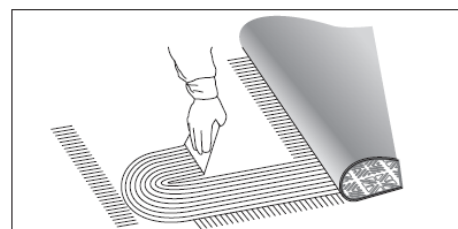
2. 割り付け

- できるだけ継目部を少なく、端部に小さなシートが入らないように割り付けてください。
- 端部は端部処理材の仕上げ代として排水溝端部から5mm以上、壁際は3mm程度の隙間を空けてください。
- 接着剤を端部まで塗布するため、シート端部の位置を下地に鉛筆などでかがいてください。



3. 仮敷き

- 張り付け基準線に沿って、同方向に仮敷きを行ってください。
- 巻きグセを取り、シワが生じないように敷き延ばしてください。
- 柄模様のあるシートは、できるだけ柄合わせを行いながら、シートを敷いてください。
- 二枚のシートの継目部は突き付けとし、隙間が生じないように注意してください。
- 継目は柄模様の目地部で行うのが基本です。



4. 接着剤の塗布準備

- 下地に接着剤を塗布するため、タキストロンの半分(巾方向)をすれないように折り返してください。

5. 接着剤の塗布

- エポキシ系接着剤の場合、接着剤は下地上での混合は行わないで別容器で十分に攪拌してください。
(下地上で混合すると混合不良となり後日のフクレ・接着不良の原因となります。)
- 下地に塗布ムラが生じないように均一に塗布してください。

標準塗布量	モルタル下地:300~400g/m ² 非吸水性下地:250~350g/m ²
-------	--

- クシ山が1/3以上摩耗した場合、三角ヤスリで目立てを行ってください。

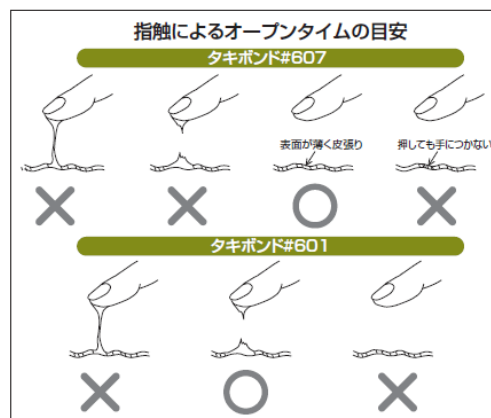
6. オープンタイム

- 接着剤を塗布した後オープンタイムを取り、張り付け可能時間内にシートを張り付けてください。
- オープンタイムが短いとガス膨れが生じます。
- オープンタイムを取り過ぎて接着剤が乾きすぎると接着力が低下します。

オープンタイムの目安(20℃)

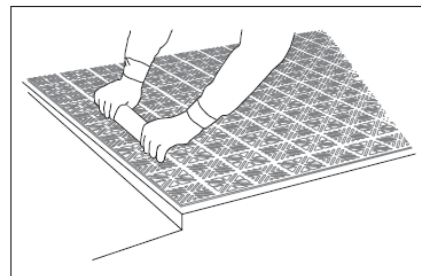
接着剤	オープンタイム	張り付け可能時間
タキボンド#607	20~30分	40~50分
タキボンド#601	30~40分	60~70分

- タキボンド#601は5℃以下では硬化しませんので使用しないでください。
(硬化反応が進みません。)



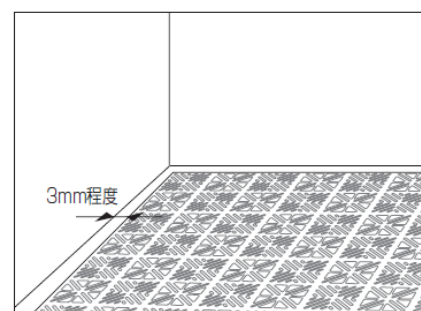
7. 張り付け・エア抜

- シートにシワを生じさせないように、中央部から丁寧にシートを張り付けてください。
- シート張り付け後、しごき圧着でエア抜きを十分に行った後、床ローラーや、しごき棒などで圧着してください。



8. 壁際の裁断

- 壁際は3mm程度の隙間が空くように裁断してください。
- 下地に防水層がある場合は、カッターナイフ等で傷を付けないように注意してください。



9. 圧着

- 壁際及び継目部をハンドローラーやコーナーローラーで十分に圧着してください。

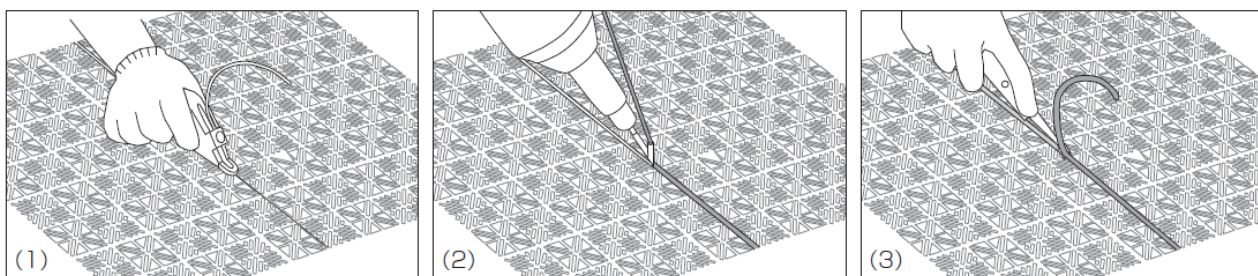
10. 継目処理

溶接工法

- (1)接着剤が完全に硬化してから溝切り機*等でシート厚みの2/3程度の深さでU字溝を設けてください。
※推奨:ヤヨイ化学販売(株)「ユーキリ・スーパー」
- (2)熱風溶接機(ライスター)でタキストロン床溶接棒を溶融させながら溶接ビードができる程度に溶接してください。

溶接条件の目安	設定	アナログ	6~7
			デジタル
	スピード	1~2m/分	

- (3)タキストロン床溶接棒が冷えてから余盛部を溶接棒トリマー等で平滑に仕上げてください。



シール工法

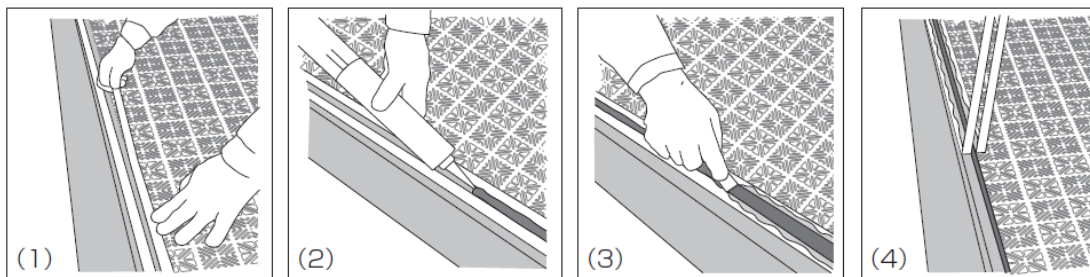
打設後の養生が可能な場合は、11.端部処理と同様の手順で端部処理材を使用することも可能です。但し、以下につきまして十分に注意してください。

- ※養生期間を2~3日間設けてください。
- ※エポシール・タキシールの仕上がり面は、硬化後多少の痩せが生じます。

11. 端部処理

- (1)仕上がりを美しくするためにマスキングテープで養生してください。
- (2)気泡を巻き込まないようにシート端部及び壁際に塗布してください。
- (3)充填後直ちに仕上げ用ヘラで平滑に仕上げてください。
- (4)ヘラ仕上げ後直ちにマスキングテープを除去してください。

- ※エポシール・タキシールの仕上がり面は、硬化後多少の痩せが生じます。
- ※エポシールは、水に濡れると多少白っぽく変化することがありますが、乾燥すると目立ちにくくなります。
- ※エポシールは主剤、硬化剤、カラーマスターの混合が必要です。同梱の取扱説明書を参照してください。



12. 清掃

- シート残材・接着剤容器・梱包紙等を片付けてください。
- カッターナイフの折れ刃の回収を徹底してください。

13. 養生

- 端部処理材が硬化するまで踏まないでください(2~3日以上)。
- 施工中及び接着剤が硬化するまでは、暖房などの急激な温度変化を与えないでください。
- 土足での歩行を控え、養生シートを敷いて汚さないようにしてください。
- 重量物の運搬などは、接着剤硬化後(1~2日)、ベニヤ板などを敷いて車輪の跡形や傷を付けないように行ってください。